

シロワニの口腔内潰瘍の保定治療

森 徹¹⁾, 折居 巧¹⁾, 杉山 伸樹²⁾

(¹⁾海の中道海洋生態科学館, ²⁾海の中道動物病院)

シロワニ *Carcharias taurus* はネズミザメ目ミズワニ科に属する鋭い歯を持つ大型のサメである。海の中道海洋生態科学館では 1995 年と 1996 年に輸送し現在も展示を継続しているが、治療を目的とした保定の報告はない。1995 年に搬入した雌個体 (TL2.5m、BW135kg) の口腔内に潰瘍があるのを 1996 年から確認していたが、この潰瘍は次第に大きくなり、噛み合せの度にうっ血が見られたので、2001 年 2 月 25 日にこの潰瘍を除去することを目的に、展示水槽内 (水量 1400 m³) での捕獲、移動、保定治療を行った。本報告ではこの一連の経過を報告する。

作業は、ダイバーにより水中でドミツール (鎮静剤) 15ml を右体側に筋肉注射し、30 分後に遊泳停止状態となった個体を塩ビ製ネットで作った担架で捕獲、その後、展示水槽外部の治療用コンテナ型水槽に移動した。コンテナ型水槽内にはマットを敷き、鰓が浸漬する深さまで海水を入れた。顎の保定は上顎をバスタオルで巻いて引き上げ、下顎はコンテナ内に取り付けたベルト付き保定板で固定した。潰瘍は右顎関節付近に幅 5cm 長さ 5cm の大きさがあり、外科治療用メスにて除去した。また切除後は患部を焼きごてにて止血処置した。処置終了後、アンチセダン (拮抗剤) 15ml を左体側に筋肉注射し速やかに展示水槽に戻した。放流から遊泳開始までの時間は 5 分間であった。取り上げから放流までの所要時間は 25 分間であった。同個体は現在正常に飼育されており患部の再発も見られていない。